

内科

胆のう腺筋腫症について

胆のうの壁の一部、または全体が厚くなる、胆のう腺筋腫症（あるいは腺筋症）という疾患があります。健診などで、腹部超音波の検査の際に無症状で発見されることが多く、結石や炎症を伴う場合には右上腹部痛や背部痛などの症状がみられるようになります。発生する部位により底部型、分節型、びまん型に分類され、胆の

う壁内のロキタンスキー・アシヨフ洞という、のう胞状の隙間が増大し、その周囲の筋繊維も増殖して壁が肥厚します。この疾患に胆のうがんを合併する割合は1〜7%程度とされ、分節型の場合、胆汁のうづ滞から結石ができ、内圧が高まって炎症を繰り返すことが、胆のうがんの発生に関与していると考えられています。がんの

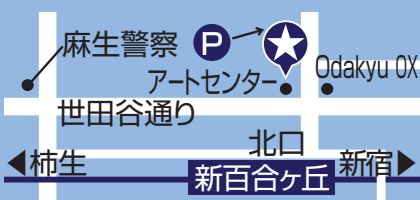
合併がないことを確認するためには、CTやMRIも有用で、胆のう炎を繰り返す場合やがんを否定できない場合には、胆のう摘出術を行います。



福本 学

内科

新百合山手福本内科



☎044-955-8877
麻生区万福寺6-7-2
メディカルモリノビル2F
<http://www.fukumotonaika.jp/>